公表用（要約版）

第４回　青森市総合計画審議会　第１分科会　議事要旨

【日　　時】平成 30 年 11 月 1 日（木）14：00～16：00
【場　　所】青森市役所本庁舎　議会棟４階　第２委員会室
【出 席 者】内山 清 分科会長、櫻田 清明 委員、奈良 秀則 委員、福士 修身 委員　計４名
【欠 席 者】西 秀記 委員
【オブザーバー・傍聴者等】なし
【関係部局】相馬浪岡事務所副所長、堀川経済政策課副参事、堀経済政策課主幹、
中西新ビジネス支援課長、横山観光課長、越谷交流推進課副参事、
小山農業政策課副参事　計７名
【事 務 局】舘山企画調整課長、福田企画調整課主査、野宮企画調整課主査　計３名
【配付資料】
・次第
・資料1_基本構想（素案）の構成と前期基本計画の構成表（案）
・資料2_各政策における「現状と課題」「基本方向」「主な取組」一覧表
【会議の概要】
○今後の主なスケジュール及び配付資料の内容を説明した後、基本計画答申案（素案）について、各委員が意見を出し合った。

「(1) 産業の振興・雇用対策の推進」について

（委員）
・工業団地は造成した時から時代が変わり、進出形態が変わってきている。第２次産業、製造業に関わらない産業など、いろいろ多様化している中で、法律的な名称なのかもしれないが「工業団地」という言葉がすごく邪魔をする感じがする。産業団地とかもっと違う状況、時代背景を表現したものにしないといけない。
・中核工場団地も、自動車会社もあれば、いろいろな製造会社もありますしね。いろいろな企業が集まって、団地の機能が生きてくる。
・多様な進出形態という中で、地元が雇用の需要に応えられるかという課題もある。労働力の確保、質の良さ、量があるから進出するという時代は終わっていて、そういうことへの期待でない進出をプレゼンしていかないといけない。
・現状と課題の中の雇用の部分ですが、外国人の労働力をどう考えるのかについて触れなくていいのか。流れとしては、外国人の労働者は増えてくると思う。
・微妙なところですよね。今まさに国会で議論している。いままで研修生ですからね。これからは雇用が出来るということですから、まだ早いかもしれませんが、いずれは書きこまれることになる。
・産業の状況の一番下のところで「域内からの所得流出を抑制し、」と記載がありますが、

出ていくのを抑制すると、入ってくるのも入ってこない。何も出さないで独り占めというイメージがある。抑制というのは言葉的に強い。
・経済的な話からいうと、ちょっとありえない。言葉としてはあっても。そういうことをしたら縮むだけである。域内でもう少し交流を盛んにしましょうという意味では。市内でこんなことをやったら大変なことになる。
・バックオフィスの文言が消えた理由は。青森市ではバックオフィスの進出はあり得ないということですか。

（事務局）
「バックオフィス、サテライトオフィス」と２つ例示をしていた部分を、前段の説明文を追加し、例示をサテライトオフィス１つにしたものであり、バックオフィスの進出があり得ないから削除したということではありません。

（委員）
・特に海外の企業誘致というのは、まるごとを持ってくるのは不可能な話で、どちらかというとフロントオフィスを誘致している。要するに ICT の進展でそれが可能になって、フロントオフィスは物理的な条件・制限が少ない。工場だと、水だとかいろいろな要素があるが、全くないに等しい。むしろその町の雰囲気や可能性などで立地という流れですよね。労働集約型を誘致するのではなくて。
・雇用の中で「本市の魅力ある仕事に関する情報発信を行い」という言葉が削除されていますが、今、修正案で記載されているような内容は、結構大学等で行っている。やっていないのは、青森市で就職すれば、こんないい生活、こんな楽しいことがあるよという、大都市とは暮らし方がそもそも違うということがほとんどなくて、でも非常に重要なことなので、魅力あるところはいっぱいあるが、あまり言われていないことなので、この文言は是非、雇用対策の中で言っていくべきじゃないかな。
・商店街の機能充実のところは特にそうだと思いますが、事業承継は金融なんですよ。担保だとか。そことの連携が必要、外してはいけない部分です。
・ジェトロ（日本貿易振興機構）の方とはどうですか、市との連携というのは。大いに利用していくべきと考えますね。
・ジェトロなんかは、青森に赴任した方々が海外に行っているケースが多く、そういう人脈を大事にしていかないといけない。
・商店街で、地域としてショッピングでなくても、そこにいるだけで楽しいとか、時間を消費できるとか、そういうのが非常に重要だと思います。商店街ではあるけれども、個店以外の施設も結構いろいろあって、前に観光のところで出てきたアートをもう少し長期的に攻めてみましょうとかね。そういうのも商店街づくりをしていく上で戦略的にいかしていくのは重要かな。

・大きな構想としては、観光という視点で捉える、アートというのは資源になりえますよと。青森はACAC、県美、弘前は何年か後に、そして八戸も、十和田に現代美術館がある。この広域的な美術館のネットワークをきちんと組んで広域的にやれば、青森は現代アートで人を呼べるというような大きなことがあって、個々で商店街といろいろやってという展開を見せれば、これはアートの街というイメージ作りになるということで今やっている。今月も経済同友会で森美術館の館長を呼んで、観光というテーマで講演を聴くんですけれども、そういうことが今起きている。
・10年とか時間をかけて作りこんでいかないといけない。
・今日、新聞読んだら公立大のところでいろいろな芸術家が発表をしているという記事がありました。あのエリアだけでなくて、まちなかでうまく発表できる空間だとかスペースだとか、別な雰囲気が醸し出されるんですよね。なんかもったいない感じがしますよね。
・青森市の美術館はそういう環境が良すぎるところにありすぎて。だからそこを一辺倒ではなくて、だからまちの中で何かすると繋がると。
・古川のところから新町に出る通りで、コーヒーのイベントがありましたが、雨の中、人いっぱいいましたよ。青森の人、そういう、イベントが好きですよね。それに商店街が絡んでね。何かにつけて人が集まる、それが商店街に繋がるという、いい流れでいければいいですよね。
・商店街の課題は、いろいろ官の協力があり、イベントは結構ありますが、イベントの時は人が集まるが、日常とどう繋げるのかが課題である。
・商店街の記載の中にありますが、いわゆる通販とかネットショッピングとの関係とか、そういうものが広がることは仕方がないので、ヴァーチャルのショッピングと、実際、目で楽しみながら、動きながらのショッピングと棲み分けていくことになる。
・2025 年問題というのがひとつの大きな課題になっていますが、団塊世代は今パソコンを使えるので、ますます拍車がかかる。訪問して買って、これがいいね、という文化が残るかの瀬戸際ですよね。自分達が仕入れているものは一点ものではなくて、ある意味どこにでもあると。そういう中で差別化、個性を出せるかというところが課題になっていますよね。
・オリジナルな商品だとか、それを少し加工したとか、それにストーリーをつけただとかね。
・おそらく、北東北とか狭いエリアではなくて、日本を越えて海外からオーダーが入ることが当たり前になるので、そういうことに耐えうるように情報発信が可能かみたいなことになる。
・2025 年問題というのはさまざまなところで、問屋町の問題、問屋の問題とか卸業の問題とかさまざまな問題を抱えている。逆に言えば、そこにビジネスチャンスもあるということ。
・青森市の産業の状況の話をすると、どうしても観光の部分と重なる部分があるので、意識的に重なっていい部分は積極的に重ねたほうが得だと思います。それが地域の産業としての特色にもなりえる。
・商店街にしろ、レストランにしろ、物販にしろ、人口減少でパイが減るのは仕方がないの

で、域外からの獲得ということになれば、観光に直結する。交流人口というところで所得を落としてもらう。取組のひとつでアートだとかスポーツコミッションだとか。交流人口拡大
・産業構造の組み換えと書いてあったとおり、まさにそうだと思うんですよね。今までの産業構造とは違った意味合いになる。1次、2次、3次ということではなくなると思いますね。
・何故、観光、観光と、これからの事に期待しているかというと、裾野が広いことが前提にある。さまざまな産業に、商店、農業、漁業、宿泊業にも影響がある。
・地域ベンチャーの支援のところ、非常にいい項目が書かれてある。現市政において起業マインドを進めていこうということがある。いい中での状況で進めていけばいいと思っている。
・小中学校の時から、正規の科目じゃないけれども、新たなことに挑戦して、将来起業したいという、起業マインドが膨らむような、実践的なそういう取組を進めていって、将来いつか自分はこうなるというのが増えてくれば理想的ですよね。学校だと忙しすぎてやれないと思いますが。
・先生がその世界にいたことがないので、そういう感覚はないため、それは無理ですよ。そういう教室、科目をやるなら、誰か講師を連れて行かないと無理です。
・今現在は高等教育においても、大学というところで、連携してやっていますよね。スタートアップといったことを。小学校あたりからというと、中学校ではこういった講座だとか、体系的に作ってないと駄目で、そこに派遣する講師が必要。継続してやることが大事。
・単にテストの点が取れればいいという時代ではなくなってきていて、特に、これから人工知能などが発展してくれば、そういうものと競争しても仕方がない訳ですので、知識だけ獲得しても駄目で、どうやってクリエイティブ、新しいのを作っていこうかという感じになると、そういところから組み替えていかないとなかなか難しい。
・アントレプレナー精神を若い頃からどう植えつけるというのは、インターンシップとは少し違う。起業とはまた違う次元のスタートですよね。先生には難しいことなので、外部から講師を招かないと出来ない。

「(2) 農林水産業の振興」について

・「AoMoLink～赤坂～」ですが、今後続けていくことになりますか。それこそ県などとの連携で北彩館とここがあると、ややこしいですよ。情報発信も効率悪くなっている。何度か行きましたけれども、人がいないですよ。「AoMoLink～赤坂～」は総合的でないですよ。情報発信したいという立場からするとあれなのかもしれませんが、情報を受け取る側からすると、ここに来ても青森市の情報しかない。他のところに行くと総合的にある。本来のところからいくと、あまり効果発揮できていないのではないかなと思います。単なる発信目線でしかない感じがして。あの広い東京の中で、あそこからいくら騒いだって、なかなか大変ですよね。
・要するに首都圏における情報発信が必要だとかね。それをここに縛ってしまうのはどうか

と思います。
・（この分野は）うまくまとまっていると思いましたけれども、主な取組の農林水産業の経営体質の強化のところに、担い手の確保・育成と記載されておりますけれども、確保と育成を逆にした方が分かりやすい、話しやすいような気がします。担い手の育成・確保の方がいい。
・漁業のところで「漁業の成長産業化」と書いているのですが、成長産業化に向けてというのは表現的に大丈夫ですかね。「持続的に発展」とかその程度にしておいた方がよろしいのではないでしょうか。また、以前記述のあった「スマート農業」という文言が削除されていますが、それはよろしいのですか。

（事務局）
・「ロボット技術・情報通信技術等の先進技術の導入など、作業の省力化や生産性の向上に向けた」の部分が「スマート農業」を表す記述部分であり、文言は記載しておりませんが、スマート農業のエッセンスは盛り込んでおります。

（委員）
・逆のような気がします。「スマート農業」の方が、いろいろなものを包括できる。ロボットだ ICT だというよりは。それこそドローンから何から包括できる。
・いくら人口減少や高齢化の中で確保・育成といっても非常にきびしいですよ。でも生産体制を維持する。生産量を確保する。出荷の要請があるとなれば、やらないといけないですよ。今、青森の農業出荷額はどれくらいになっていますか。大事なのはそれを維持するということでやるのか、伸ばすという方向でやるのかで、違うと思います。
・産業構造的にいうと、青森において、農業は基幹産業であると。
・青森県は農業県といっていますが、農業者の数でいったらすごく少ない。日本全国で共通ですよね。日本は農業国というね。
・生産高でいうと、青森市は東北で一番です。
・青森市は生産高がどれくらいで、それを今後どうしていきたいのかという話です。

（事務局）
・農林水産業の生産額であると、手持ちのデータで最新が平成 26 年度ですが、19 億 6 千万円ということになっています。

（委員）
・それが一戸あたりの所得になるとどうなるのかと。担い手の確保の壁がまたでてくる。
・トータル量で維持するといっても、人数が少なくなると、一人当たりでは結構伸びないと難しい。

・輸出も含めて伸ばすと、県外にもっと積極的に売り出すというときに、あと生産量はどのくらい必要かとかね。耕地面積がいくらになっているのかとか、それでまかなえるのかというのが非常に大事になってくる。それを補うためにスマート農業が当然出てこないといけない。
・農業の部分で6次については販売のところで出てきますが、1.5次とか2.5次とかはそういう話は出てきないのが、それでよろしいのでしょうか。

「(3) 観光の振興・誘客の推進」について

（委員）
・広域観光の推進のところですが、戦略的な観光プロモーションと情報発信という中で、国を入れないと効果的に出来ない。JNTO（日本政府観光局）としっかり連携していかないといけない。各自治体がJNTOと組んで、JNTOのシンガポールの駐在所に人を出向させたり。特にJNTOがアジアに力を入れていて、そういう中でたくさんイベントをやっている。高山の自治体はそれを地道に３０年やってきた。それでその結果が出ている。
・観光というところではJNTOとしっかり連携して、ネットワークを組んで、関係を構築しないと海外プロモーションの情報とか展開力とかが難しいと思います。単独では出来ません。
JNTO と書いてもいいですし、国をはじめと書いてもいいですけれども、そういう表現は必要と思います。
・観光資源の充実のところで、冬の話で八甲田の樹氷、スノーアクティビティ等の記載がありますが、要するに人が来ればいい。だったら観光資源にこだわらないで、そこにスポーツコミッション、大会誘致、冬季スポーツの誘致とかを絡める必要がある。
・基本方向の中で自然、歴史・文化・芸術、食のところに新たにスポーツとか癒しとかを狙っているところなので、今タイミング的には入れてもいいのかなと。
・人を呼ぶということでは、芸術も観光資源、スポーツも観光資源。
・クルーズ客船ですが、来年からちょっと船が伸び悩みですね。秋田に取られてね。
・来年と再来年が過渡期でちょっとピンチでね。今年入港した大型客船が来ない。オリンピックはホテルセットをやるわけでしょ。
・よく物の販売だと、海外のエージェントをつかってそこを拠点にして、売り込んでいくということがありますが、今後所得が上がってくる東南アジアだとかマレーシアだとか、結構日本人のリタイアした人が長期滞在で、手持ち無沙汰でいるので、そういう人と連携して、何かできないですかね。
・交通網の充実と利用促進の中で、観光客だけの利用促進でなくて、やっぱりバスとかタクシーだとか、興味ある人は路線バスにも乗りたいという中で、例えばSuicaが普及しないと乗らない。